



2007.10.19

## 平成19年9月期国際キワニス日本地区事業報告書 (2006.10.1~2007.9.30)

本年度の日本地区決議である「継続は力なり “Together We Can”」にそって、この1年間キワニスドールをはじめとする様々なキワニスの奉仕活動を推進するとともに、各クラブへのガバナー公式訪問等を通じ、各クラブの独自性の尊重と情報交換に努めてきました。引き続き、従来の方針を受け継ぐことにより、幼児最優先のキワニス奉仕活動は、必ず全国に受け入れられ、知名度の高揚と会員増強に結びつくものと考えられます。具体的な活動内容は次の通りです。

### 1. クラブの新設と会員増強

クラブ新設については、日本地区として、年間2クラブ設立目標としておりますが、昨年の金沢クラブ、松江クラブに引き続いて、本年度も、熊本クラブをスポンサークラブとして、昨年12月21日鹿児島クラブの設立総会が開かれ、1月18日盛大にチャーターナイトが開催されました。

本年2月8日には、「クラブ新設委員会」が東京で開催され、全国7クラブから12名が出席され、意見交換のうえ、今後のクラブ新設方針について、有意義に議論されました。

また、来たる11月9日には、神戸クラブをスポンサーとして、芦屋クラブの設立総会が予定されています。

会員増強につきまして、昨年の1500人体制の目標達成を基盤としまして、今期は1,600人の目標に対し、9月末現在で1,542人となり、目標達成も目前となっております。

今後とも長期計画に沿って着実に増加させていきたいと考えます。

### 2. 国際キワニスとの連携

国際キワニスとの連携は、国際評議会、ASPAC役員会、国際年次総会等の機会を捉えて、日本の現状や考え方について、意思疎通に努めてきました。また、国際本部にメールや文書を毎日のように発信して、国際キワニスへの報告はもちろん、日本地区の独自性など情報交換に努めてきております。国際本部の日本地区への理解度は、着実に理解が進んできていると考えられます。

### 3. 国際会議への積極的参加

国際会議には、さまざまな会議がありますが、主なものはガバナーと事務総長が出席して、年度の活動方針を確認する国際評議会、各地区の次期ガバナーの集まる研修会議、そして、ガバナーが参加する役員会があります。これらはリーダーシップを取る人たちの会議ですが、キワニアンであれば誰でも参加できる大切な国際会議は3つあります。

一つは、全世界のキワニアンが集まる「国際年次総会」

二つ目は、アジア太平洋地域のキワニアンが集まる「ASPAC大会」

三つ目は、日本地区のキワニアンが集まる「日本地区年次総会」です。

国際会議の中心である、「国際年次総会」は、毎年開催地を変えて行われ、規約改正がおこなわれたり、重要な人事を決定する場ですが、その他に、各国の奉仕活動の様子を知ったり、各クラブが抱える共通の問題点をディスカッションしたりする場でもあります。

従来はともすると参加者は10人程度と少数でありましたが、今年のサンアントニオ大会では、出席者は目標20人に対し、31人の参加となり、代議員総会に出席したほか、フォーラムや諸会議にも積極的に参加しました。

また、今年3月に開かれたASPACマニラ大会には、日本地区から85名のキワニアンとゲストが参加したことも、昨年の高雄大会の102名の参加に続き、喜ばしいことでした。今年の国際会議出席数は次の通りです。

- ① 国際年次総会サンアントニオ大会 31名（目標20名）
- ② ASPACマニラ大会 85名（目標50名）
- ③ 日本地区年次総会横浜大会 401人（目標400名）

#### 4. 奉仕活動プロジェクトの推進

今年のキワニスクラブは、特に、キワニスドールの普及活動に熱心に取り組んだと言えます。これは単に奉仕活動を進める目的だけではなく、幼い子供を癒すキワニスドールをはじめ、幼児最優先のキワニスの奉仕活動を通じて、キワニスを世間に知っていただき、そのことによって仲間が増える循環を作る目的にも適っているといえます。

##### ① キワニスドールの普及活動

全都道府県の医療機関に寄贈し、病気の子どもたちのために少しでも、役立つことを目標としてきました。本年度は

- ・昨年10月に甲府で開催された「日本小児保健学会」への東京クラブによる展示、
- ・今年4月京都で開催された「日本小児科学会」に、京都クラブと東京クラブによる展示
- ・先月8月には、熊本で開催されました「日本外来小児科学会」へ熊本クラブによる展示
- ・また、9月20日に前橋で開催された「日本小児保健学会」には、東京クラブによる展示予定と、年4回のキワニスドールのブースを出展することとなります。

その結果、今年度における現在寄贈数6,558個となりました。これまでの累計では18,983個のキワニスドールを547箇所の医療機関等に寄贈したことになります。また、昨年は全国で5つの県が空白でしたが、今年3月には全国47都道府県 全てに、寄贈達成しております。

お蔭様でこれにより、全国の小児科学会にはキワニスドールの広報が十二分に行き届いたものと手応えが十二分に感じられようになりました。

また、7月のサンアントニオ大会では、ミキ・キューナット元国際会長夫人のお誘いで、シカゴやノルウェー、ベルギーなどと一緒に日本地区のキワニスドールの活動について、展示ブースで紹介し、多くの大会参加者がキワニスドールに興味を示されました。

##### ② 日本地区幼児優先奉仕活動としての「幼児虐待防止活動」の推進

キワニスドールと共に、YCPO委員会（木全ミツ委員長）は、かねてから日本独自の幼児対象の奉仕活動として「幼児虐待防止活動」に焦点を絞り、委員のディビジョン担当を設定し、各クラブとの交流連携を目的に、各クラブを訪問し、積極的に意見交換を実施されてきました。前年度の和歌山クラブをスタートとし、今年度は、横浜、名古屋、神戸、西宮、新潟、静岡、熊本、仙台と、これまでに全国9クラブを精力的に訪問されています。

また、各クラブに担当委員をお願いし、「全国ネットワーク」の構築を計画中です。

なお、3月のASPACマニラ大会において、日本地区の「オレンジリボン（幼児虐待防止）キャンペーン」が、「奉仕プロジェクト最優秀賞」を、受賞しております。

### ③キワニス・ワンデイの実施

今年4月から国際キワニスの提案で始まった「キワニス・ワンデイ」は16クラブでそれぞれ、独自の奉仕活動が実施されました。

## 5. 懇談会の開催

キワニスの奉仕活動や諸活動を積極的に実施するためには、各クラブの情報交換が必要である。今回横浜大会の前日に初回懇談会を開催いたしました。有意義にフリートーキングが行われました。今後とも、適宜、副ガバナーをはじめとするクラブ会長を交えた、研修の意味を含めた懇談会を開催することが望まれます。

## 6. 広報活動の活性化

- ・各クラブの努力で、今年も各地のキワニス奉仕活動がマスコミや専門誌に取り上げられました。
- ・広報活動のツールとして、昨年作成された、キワニスドールについての、17分の「広報ビデオ」がその後も有効に使用されています。
- ・「キワニスジャパン」については、極力、記録本位に留める目的で作成しました。今後共、会員皆さんの意見を広く反映しながら、有料に相応しい改善をしていく必要があります。
- ・新入会員勧誘の際に使用する、「キワニスやその活動を紹介するパンフレット」を作成し、全クラブに配布いたしました。
- ・また、「新入会員を他クラブに紹介する際のフォーム」を作成し、全クラブに配しました。

## 7. 表彰関係

### (1) 日本キワニス文化賞

本年度の日本キワニス文化賞は去る9月に横浜で開催された日本地区年次総会で神奈川県郷土玩具「大山こま」の製作者である伊勢原市在住の木地挽物師 金子貞雄氏が受賞されました。

### (2) 国際キワニスからの表彰

- ・国際キワニス財団オーナークラブ : 横浜クラブ、和歌山クラブ
- ・アニュアル・クラブ・ギフト・キャンペーン : 中田一男前ガバナー
- ・キワニス・リーダーシップ・ソサエティ : 菅野明ガバナー

### (3) 日本地区の表彰

昨年10月の役員会で承認されました「評価基準」に基づき、次の表彰が行なわれました。

#### 《クラブ表彰》

- ・会員増強：最優秀賞：横浜クラブ 優秀賞：泉州クラブ、埼玉クラブ、熊本クラブ、金沢クラブ
- ・キワニスドール寄贈数：最優秀賞：京都クラブ 優秀賞：東京クラブ、広島クラブ、札幌クラブ、横浜クラブ、高松クラブ、新潟クラブ、埼玉クラブ、西宮クラブ、渋谷クラブ
- ・寄付活動：最優秀賞：金沢クラブ 優秀賞：東京クラブ、名古屋クラブ、大阪クラブ、広島

クラブ、神戸クラブ、仙台クラブ、札幌クラブ、横浜クラブ、高松クラブ、福岡クラブ、京都クラブ、千葉クラブ、和歌山クラブ、新潟クラブ、泉州クラブ、埼玉クラブ、西宮クラブ、渋谷クラブ、熊本クラブ、静岡クラブ

・出席率：(60%以上)：神戸クラブ、西宮クラブ、渋谷クラブ、静岡クラブ、松江クラブ  
(改善5%以上)：大阪クラブ、仙台クラブ、渋谷クラブ、静岡クラブ

・ASPACと国際年次総会出席：東京クラブ、名古屋クラブ、神戸クラブ、仙台クラブ、京都クラブ

・日本地区年次総会（横浜大会）出席：

東京クラブ、名古屋クラブ、大阪クラブ、広島クラブ、神戸クラブ、仙台クラブ、札幌クラブ、横浜クラブ、高松クラブ、福岡クラブ、京都クラブ、千葉クラブ、和歌山クラブ、新潟クラブ、泉州クラブ、埼玉クラブ、西宮クラブ、渋谷クラブ、福山クラブ、熊本クラブ、静岡クラブ、鹿児島クラブ

・ガバナー特別表彰：名古屋クラブ（幼児最優先活動）、埼玉クラブ（幼児最優先活動）  
泉州クラブ（児童虐待防止活動）、

なお、昨年の「ガバナー特別表彰」に、20年間海外の眼の悪い難民に、眼の検査と眼鏡を寄贈し続けられ、国連高等弁務官事務所の「ナンセン難民賞」を受賞された、札幌キワニスクラブの金井昭雄氏が加えられました。この業績は、キワニスで最高の荣誉である「ワールドサービスマダル」に相応しい業績であると判断し、国際キワニスに、日本地区として申請しましたが、本年7月の表彰分としては選ばれませんでした。来年表彰分として再申請しております。

《個人表彰》（新入会員を2名以上紹介）： 12クラブ 27名

## 8. 寄付活動

過去累計ベースで見ますと、国際キワニス（KIFを含む）には、これまで日本地区として、アニュアル・クラブギフトキャンペーンに335千ドル、IDD募金1,172千ドル、災害義捐金264千ドル、その他支援に63千ドルと、合計1,834千ドルの寄付活動に協力してきました。また、国内の災害には、9,411千円、その他活動に13,834千円の寄付活動を行ってきました。

今年度も、各クラブの協力を得て、アニュアル・クラブギフトキャンペーンに20千ドル、ルソン島台風災害9千ドル、能登半島災害1,486千円、新潟県中越沖地震に1,465千円を、各々募金のうえ、寄付してきております。

ただ最近IDD募金終了に伴い、ヒクソンフェローやダイヤモンドフェローが減少しております。これは、わが国の寄付行為に対する減税処置が講じられないこともあります。目下、免税となる「キワニス日本財団（KJF）の設置」について、佐藤満秋委員長により設立に向かって、検討中であります。

以上